

平成 25 年度
第 2 回 石狩川上流 河道管理ワーキング

●日時：平成 26 年 3 月 19 日（水） 13：30～15：30

●場所：一般財団法人 北海道河川財団

●出席者：

委員	所属等	氏名
○	北海道大学大学院工学研究院 教授	泉 典 洋
○	寒地土木研究所 寒地河川チーム 上席研究員	伊 藤 丹
○	NPO 法人環境防災研究機構北海道 専務理事	黒木 幹男
○	北海道大学大学院工学研究院 教授	清水 康行
○	流域生態研究所 所長	妹尾 優二
○	国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室長	服 部 敦
○	北見工業大学社会環境工学科 教授	渡 邊 康 玄

※委員五十音順、事務局、敬称略

●議題：

1. 河床低下対策工について

- ・大型模型実験の結果と考察
- ・今後のスケジュール

●議事要旨

<旭川開発建設部 報告>

●河床低下対策工について

- ・ 大型模型実験の結果から、河床低下対策工（案）の効果（河床低下抑制や滲筋の発達抑制）が確認できた。それら大型模型実験の結果は、既往検討計算結果等とも一致している。
- ・ 河床低下が年々進行しているため、来年度から効果が期待できる対策を実施していく予定。
- ・ しかしながら、覆礫したとしても河岸際が再び露岩し、岩盤洗掘が生じることが懸念されるため、引き続き、大型模型実験等を通じて局所的な対策検討を継続する予定。

■ 主な意見交換内容

項目	意見内容
<p>今後の対策検討について</p>	<p>実験結果から、滲筋発達やそれにとまなう樹林化を抑制できる対策であると考えられる。</p> <p>しかしながら、実験結果は土砂移動が十分にあった場合の話であり、大きな洪水が長期間発生しない場合は、露岩箇所が固定化し、岩盤洗掘が進行することが懸念される。</p> <p>そのため、露岩抑制策について検討していくべきと考えられる。</p> <p>対策として根固めブロックを利用すると、ブロックの隙間が吸い出しを受け洗掘されるため、あまり望ましくない。</p> <p>岩盤床変化に対する知見は未だ十分ではなく、将来予測に不確実性が多く含まれている。そのため、岩盤床を切り下げて砂礫床に戻すような対策も検討すること。</p> <p>岩盤を金網などのネットで覆う対策については、水面上に暴露した場合の景観や魚類、植生等への影響が未知数である。常時水面下となる箇所においては、例えば蛇籠のような対策が効果を発揮している事例があるので参考にすること。</p> <p>流水のエネルギーの分散・吸収と土砂コントロールの考え方を取り入れ、施工を工夫すること。</p>
<p>来年度の実験について</p>	<p>今年度の実験は上流からの土砂供給が十分な場合を想定している。上流からの供給土砂量が減少する可能性もあるため、土砂供給量が減少した場合の影響について確認すること。</p> <p>模型実験の結果と実現象の時間スケールの関係を概略的に把握しておくべきである。</p> <p>実験では洪水減水期の流向変化や、河道全体・区間の土砂収支が確認できるよう計測、スケッチ等をおこなうこと。</p>

●ワーキングの様子



【お問い合わせ先】

石狩川上流 河道管理ワーキング事務局
北海道開発局 旭川開発建設部 治水課
〒078-8513 旭川市宮前通東 4155 番 31
TEL 0166-32-4245、FAX 0166-32-2927

以上